

インマヌエル中目黒キリスト教会

2015年5月31日聖日礼拝

「恵みは何度でも」

ヘブル人への手紙5章11 - 6章11節

河村従彦牧師



聖書朗読

新約聖書

ヘブル人への手紙5章11節-6章11節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp394 ~ / 第三版の聖書はp429 ~

5章

- 11 この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。
- 12 あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のこぼの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。
- 13 まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。

14 しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。

6章

- 1 ですから、私たちは、キリストについての初步の教えをあとにして、成熟を目ざして進もうではありませんか。死んだ行いからの回心、神に対する信仰、
- 2 きよめの洗いについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。

- 3 神がお許しになるならば、私たちはそうすべきです。
- 4 一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、
- 5 神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを味わったうえで、
- 6 しかも墮落してしまうならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、恥辱を与える人たちだからです。

- 7 土地は、その上にしばしば降る雨を吸い込んで、これを耕す人たちのために有用な作物を生じるなら、神の祝福にあずかります。
- 8 しかし、いばらやあざみなどを生えさせるなら、無用なものであって、やがてのろいを受け、ついには焼かれてしまいます。
- 9 だが、愛する人たち。私たちはこのように言いますが、あなたがたについては、もっと良いことを確信しています。それは救いにつながることです。

- 10 神は正しい方であって、あなたがたの行いを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです。
- 11 そこで、私たちは、あなたがたひとりひとりが、同じ熱心さを示して、最後まで、私たちの希望について十分な確信を持ち続けてくれるように切望します。

説教

「恵みは何度でも」
ヘブル人への手紙5章11節-6章11節

河村従彦師



はじめに

ペンテコステの意義

- 1 父、み子、御霊 三役そろい踏み
御子が現れたのは？ → クリスマス
聖霊が注がれたのは？ → ペンテコステ
- 2 教会の誕生

I ヘブル人への手紙

A どのような書？

1 だれが書いたのか

2 あて先は

3 いつ頃書かれたか

4 だれに読んでほしかったのか

B 何を伝えている？

新しい教会の時代が来ている

II 新しい時代の特徴を示すみことば

A 2:4の意味

使徒の働き2:22

B 基礎的なことが要らない時代 5:11 ~ 6:6

1 背景

2 初步の教えの詳細

(1) 死んだ行いからの回心

(2) 神に対する信仰

(3) きよめの洗いについての教え

(4) 手を置く儀式

(5) 死者の復活

(6) とこしえのさばき

3 ヘブル人への手紙の読み手
これが初歩という人たち

4 そういう人にとって初歩にとどまり続ける
とは

C 再び恵みから離れることの意味 6:4 ~ 6

1 恵みを知る経験

- (1) 天からの賜の味を知った
- (2) 聖霊に与る者となった
- (3) 神のすばらしいみことばを味わった

2 一般的に考えられている印象

3 戻り方の違い

わたしたち異邦人の場合

キリスト者らしい行動はない



イエスさまを信じる



恵みに深められる



恵みから離れる



キリスト者らしい行動がなくなる

ヘブル人の場合

神の民らしい生活様式



イエスさまを信じる



恵みに深められる



恵みから離れる



ますます神の民らしくなる
初歩的な難しいことを始める

4 ヘブル人の戻り方 6:6
十字架は要らないというスタンスになる

5 わたしたちも「隠れヘブル人」
難しい「初歩的なこと」の魅力

D わたしたちにとっての6節
何度でもやり直せて.....

E 恵みを知らずにやっていた期間の意味
6:10

神さまは正しい方なので、
愛のわざを忘れない

F 望みがある

III 望みをもって生きる時代

A 信じて生きる

B 忍耐が必要な時も